

編集後記

本号でも、多様なバックグラウンドをもつ研究者や実務家の論文を掲載することができた。この編集作業では、国際経営研究所に所属する研究員が、実に幅広い分野に亘って活躍していることを再認識することができた。普段の私は、自分の専門とする舞台の上に並べられた論文や書物のみの活字を追っている。しかし、色とりどりのタイトルが並ぶフォーラムは、他分野の研究を身近なものと感じさせ、知的好奇心を無限に広げてくれる。編集委員は半強制的にはあるが。

なお、お気づきのことと思うが、20号を記念して表紙のデザインを一新した。実は、この編集後記を書いている今現在、デザイナーより最終案が届いていない。さて、どのような表紙になるのか、実に楽しみである。20年といえば、成人を迎え青春真っ直中の若人である。このイメージを「若々しく斬新だが、落ち着いた重々しさ」というテーマで表現するよう、デザイナーに頼んである。「80号や100号になったら、どのようなテーマにするのだ？」という意見はさておき、皆さんは新しい表紙に対して、どのような感想を持ったであろうか。

(編集委員長 小島大徳)